

心理療法特論

選択 2単位

高梨 利恵子

1. 授業の概要(ねらい)

本講義は、さまざまな心理療法の実践に資するよう、以下の2つを中心に構成される。一つ目は、心理療法のプロセス、すなわち初回面接、見立て、面接の経過、行き詰まりの理解と対処、終結にまつわることなどについて理解することである。二つ目は認知行動療法の基本姿勢や技法を学びながら、心理療法で行われていることの一端を学ぶことである。そのうえで、実践が行われる場や対象の見立てによる適応の工夫について併せて学ぶことで、現場のニーズに対応する視点を得る。心理療法家となり、心理療法家であり続けるには、耐えることのない実践と研鑽が求められるが、そのプロセスに必要な基礎を築くことを目指す。

2. 授業の到達目標

心理療法の基礎的枠組みについて説明できる。
認知行動療法の基本的な技法(ケースフォーミュレーション、行動活性化、認知再構成、行動実験、問題解決モジュール等)を実践できる。
実践の場や対象に合わせて技法の適応を工夫する視点を持つことができる。

3. 成績評価の方法および基準

ディスカッションへの参加, ロールプレイ演習およびグループワーク等でのパフォーマンス40%、期末試験60%

4. 教科書・参考文献

参考文献

堀越勝・野村俊明 精神療法の基本 支持から認知行動療法まで 医学書院
東京駒場CBT研究会・石垣/琢磨・山本/貢司 クライエントの言葉をひきだす認知療法の「問う力」 ソクラテス的手法を使いこなす 金剛出版
デニス・グリーンバーガー
クリスティアン・A・パデスキー うつと不安の認知行動療法練習帳 増補改訂版 創元社
馬場 禮子 精神分析的な心理療法の実践—クライエントに出会う前に 岩崎学術出版社

5. 準備学習の内容

授業で扱われた事項について、教科書で提示している文献で復習し、掲載されたワークに取り組みながら体験的に理解すること。
授業内で提示される文献について積極的に学習し理解を深めること。

6. その他履修上の注意事項

ロールプレイやグループワークなどの体験的なワークが含まれる。
この科目は臨床心理学専攻に特化した科目である。

7. 授業内容

【第1回】 以下は予定であるが、登録学生数や理解度などにより変更もある。

オリエンテーション
心理療法概論1 各種心理療法の概要と比較

【第2回】 心理療法概論2
動機付け、見立て、目標の設定、治療同盟、治療契約など

【第3回】 心理療法概論3
面接中に生じること、治療者患者関係、停滞、中断、終結など

【第4回】 認知行動療法概論
歴史・様々な理論・実践例

【第5回】 認知行動療法の技法1
セッションの構造化

【第6回】 認知行動療法の技法2
ケースフォーミュレーション

【第7回】 認知行動療法の技法3
認知再構成法1

【第8回】 認知行動療法の技法4
認知再構成法2

【第9回】 認知行動療法の技法5
行動活性化

【第10回】 認知行動療法の技法6
問題解決技法、イメージ書き直し法、その他

【第11回】 認知行動療法の技法の実践1
プロトコルに基づいた認知行動療法
社交不安症の認知行動療法

【第12回】 認知行動療法の技法の実践2
自殺対策の認知行動療法

【第13回】 認知行動療法の技法の実践3
終結・再発予防

【第14回】 事例論文の検討1(オンライン)

【第15回】 まとめとテスト